



■ファッション特集Ⅰ 対談

自由な心を育む神戸には 芸術の原点がある

●出席者

秦 砂丘子（ファッションデザイナー・カラーリスト）

立亀 長三（神戸芸術工科大学教授）

ファッションは身にまとうだけでなく、生活環境すべてを含むアートです。神戸は街全体がアートであり、ファッションであると、ファッション都市神戸と名付けられています。

去る一月ファッションタウンで講演をされた秦砂丘子さんと、立亀長三さんにファッションのお話しを伺いました。秦砂丘子さんは、1966年から「糸」を媒体としてコレクションを続けておられ、昨年十一月に「和田

三造色彩賞」を受賞されました。この賞は、色彩活動に貢献度の高い優れた研究業績に対して贈られる賞です。

★環境が造り出すクリエイター

秦 神戸は好きで良く来るんです。不思議な街で、帰って来るとホッとしますね。センスのいい建物が多いし、昨日講演させてもらった大月真珠のホールもしゃべり易い良いホールですね。東京にはあんなの無いですよ。

立亀 東京は、建物も数は多いですがね。六甲アイランドも良いですよ。ファッションマートには東京のブランドが沢山入って来ているんですよ。

秦 神戸はお役所からファッションに関して理解があるからいいですよ。そして、お酒メーカー、ケミカル、真珠アクセサリーにしろ、社長さん達がファッションをよく知っていて応援して下さっている事はうらやましい事です。

立亀 団結が新しいクリエイトを創り出していますね。

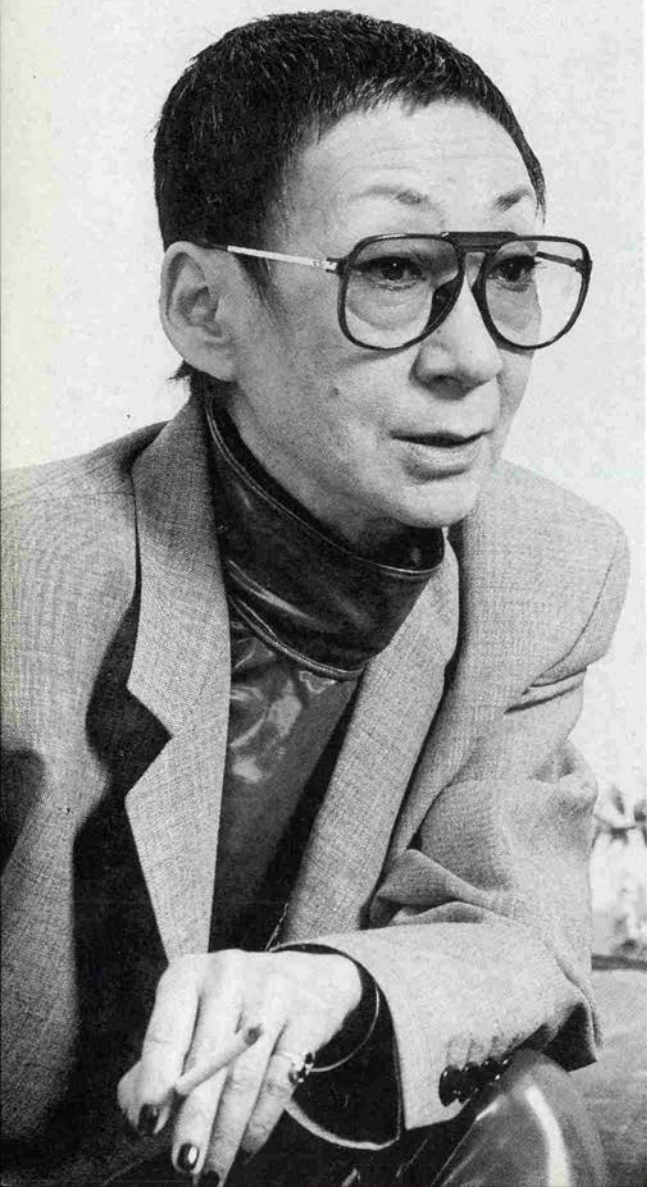
ポートアイランドのファッショントアウンにしても、ブテ

イックだけじゃなくて、真珠屋さんやお菓子屋さんが集って協力しているんですよ。昨年の神戸ファッションフェスティバルでのベルサーチ展の時には、ジャンニ・ベルサーチのお兄さんが来て、「立派な事をしてもらった」とお褒めの言葉を言われたそうですよ。

秦 あれは本当にすごい事をしましたね。

立亀 東京でファッションショーをすると、宮様の奥様や有名な人が見に来てくれますでしょ、ハイソサエティな雰囲気でもいいですよ。大阪は商人ばかりで、次は何が流行り、何が儲かるか、ですよ。その点神戸は、ロマンティズムな話しが聴く人の目を一番輝やかせますね。秦先生の「色」の話しなんか、一番嬉しいところですよ。

秦 昨日の講演では、賞をいただいた事で私の幼少の頃の話しもしたんですよ。私の生まれは箕面の近くの桜井で、小学校は箕面の自由学園、「トットちゃん」の姉妹校のような大変自由な学校だったんです。私は不思議な位学校に関しては自分で明確にどこへ行くと決めました



ね。山のふもとに赤レンガにグリーン屋根を見たとな、ここへ入ると決めたんです。つまり環境が、とても好きになった訳です。小学校5年で終戦を向かえましたけど、戦争中と言うのに週に2、3度は裏山に登っての授業があつて厳しい世間とは離れたハッピーな時を過ごしました。中学から大学までは神戸女学院へ通つたのですが、これもまた自宅から一時間半も掛るのに山の中、赤松の並木に囲まれた大理石の校舎がステキだったんです。美しい環境と開放的な神戸の自由さが気に入りましたね。

小さい頃私はワルと言うかちよつと変わった子供で、小学校の時、植物博士の校長先生に二種類の草を細工して組み合わせて困らせたり、カゼで休んでいる間に宮沢賢治の詩を暗誦して来る宿題があつたのですが、私に当てられて、私はしゃくだから前に三人位が暗誦したものをウロ覚えで自分で勝手に詩を作つて発表しちゃつたんです(笑)。あとでお目玉もりましたけど。神戸女学院時代にもイロイロあるんですよ。

立亀 僕は関学ですが、予科の時分によく女学院の裏口から入って購買部に行きましたね(笑)。

秦 テニスコートの所からね。女学院時代、体操の時間は白いブラウスに黒いブルマーだったんですが、ある時古びたセーラー服を赤い黄色、今から思うとゴールドの深い色に染めて得意になって着て行つたんです。しかし、それも後でしかられましたね(笑)。

私は始めた事ははずつと続けるって性格がありましたね。小学校も女学院もエッチラ、ホッチラ通つて、しかもその環境がどんどん好きになっていきましたね。今でもそれは変わらずに持っていますね。

立亀 個性ですね。秦先生はニットをされていますが、私もニットの世界で生きています。だから、秦万紀子先生から後継された頃から、砂丘子先生の作品はずつと見ているんですよ。

大学でニットを手編みから教えているのは私の大学だ

けです。昔は京都工芸繊維大学でもありましたが、紡織関係へ就職する人が無くなつちやいましたね。四年前、神戸に神戸芸術工科大学が出来る時、国立の九州芸術工科大学は環境デザインと視覚情報があり、その元学長が学長になられたのですが、神戸ではワイルドの畑崎さんやオールスタイルの川上さんから、ファッションの大学を作つてくれないと誘致の協力をしないって言われ、大阪の「赤シャツ」を呼んだら、と僕が呼ばれたんです。還暦過ぎて赤シャツは脱ぎましたけど(笑)。大学でニットを教えるのに、和歌山の島製機や芦屋の福原編機に連れて行つたりしてますよ。芦屋の福原編機は、丸編みで糸が普通の2倍の90本入る機械を持っているんですよ。

そんな訳で、私はずつと砂丘子先生の作品は見えていますよ。加茂さんも仲良いですし、先生のご事は神戸女学院時代にアルバイトでモデルをしていた頃から知っています。

秦 まあ、37年前ですよ(笑)。

★クリエイトの原点は、自由な心

立亀 昨年和田三造賞を受賞されましたが、昔から色が奇麗ですね。それは、秦砂丘子という一人の人間の夢が昔から今も同じだなんて感じました。

秦 昨日の講演に大学の先生方がいらして、図書館長で哲学の先生だった卒論でお世話になった溝口先生の奥様もお見えだったんです。奥様が「亡くなった溝口も一緒に聞いておられますから」っておっしゃられて、胸ドキドキになつちやいました(笑)。そして卒論の話になり「テーマは何でした?」って聞かれると、「ゲーテのウィルヘルム・マイスターの修業・遍歴時代」なんです。今しゃべっている事と同じだわ、成長していかないのかしらって思つちやいましたね。

立亀 原点があるのですよ。それがキャラクターでありクリエイトなんです。

秦 私、中学の時ずっとセーターを裏がえしに着てたんです。自分じゃ覚えがないんですけど。少し前にそれが流行りましたけど、友達が「驚きやしないわ、あなたが昔にやっていたもの」って言われましたの(笑)。立龜 個性ですね。新しい美の発見ですね。裏編みに關心を持って、ニットに通じていったのでしょね。

秦 いえ、そんな大袈裟な物じゃないですが、いつも隠された裏の縫い目を見せたかったんです。母が絵を画いていて、小さい頃洋画のイズムが変わって行った時代でしたから、母と一緒に見聞きして考えていたんです。

そこで物の見方が多様化したように思えますね。母は、大人、子供の区別なく感性を与えてくれたと思います。芥川龍之介とかチャイコフスキーなどを聞いて、中学の



頃には世界文学全集を読んでしまうような頭でっかちの子供だったと言えるんです。でも、その頃から物事を反対から見たいって気持ちがいっつもありましたね。

立龜 文化というものはこだわりだと、昨年の神戸っ子10月号に書かれておられますが、まさにそこですよ。

秦 自由な心なんですよ。東京で女学院の同窓生が30人位いるんですが、皆声大きい。自由で開放的というのは直りませぬね。はっきり物言うし、大きい声で陽気ね。しゃべらしたらうまいし、本当の事を本当にしゃべるの。

私たまたまニットをしています。領域は関係なかったの。色で環境を表現したかったのね。父は私が生まれてすぐ亡くなり、母の手で育てられました。絵を描く母は私が大学卒業の頃ニューヨークへ行ってしまったんです。それで私は、東京に出てニット・デザイナー、カラーリストの養母のもとで働きました。8年後、突然の養母の死によって、自分の道を決めねばならなくなりました。

昭和40年頃ですが、カラーリストって何のことって言われる時代。ニットを隠れ蓑にして色を表わしたの。色って、材質と形の中に必ず同居しているものなのね。どんなものの中にも色が無いって事は絶対ないのに、色が見えないの。形があり質感のある物にしか色を感じてもらえなかったのね。一番やりたかったのは点なんです。色の単位のブツブツがあったらそれを点で立体が出来てゆくんです。その点ニットは糸でしょ、線であり点に近い、つまり本質に近い物だからと、ニットをする理由にしたんです。材質は何でも良いのね。釘や安全ピンとか、点に近いものであれば。量産の文房具のクリップをつなげたりね。量産ものっていいの、安価で皆の手に入るでしょ。そんな物を再構成して着る物にする事したいの。ゴールドや高い物は嫌ね。

そしてファッション、つまり人の着る物ね。着るってことは一つの環境だし、立ったり歩いたりすると回りの

環境に広がってゆくことができるし、動いている色をしたいの。

立電 それが他のものとは違う個性ですね。

秦 目的が違うんですね。ファッショントは、とりまいてる環境に対して自分がどのように生きたいのかを提示する事だと思えます。いろんな人、いろんな目的があるけど、私は私なんですな。

それと、ファッションって心の問題ですよ。色は視覚だけじゃなくて五感で感じるものですから、食欲の湧く色ってあるでしょ。触ったり、味わったり、香ってみたりして反応するんですよ。だから私の話しの中には、音楽や香りの話しも出て来るとすよ。それから、皆が取り違えていると思う事は、若さが一番良いように言われる事。心が若ければ、おばあさんでもライブ、つまり生きていますよ。若いだけで着こなし出来ない人もいるの。我妻マリさんに「60歳、70歳になってもモデルを続けなさい」って言ってるの。心があるから、表現も美しい、若さやスタイルの問題じゃないですよ。立電 そこが、生存価値のあるところなんです。シル



エットの話しをする人は多いですが、色の話しをする人は少ないですね。美しい色をハーモニーさせるのが個性であると、今私は学生にそれを教えている最中です。

秦 私ね、初めて東京へ行った時国電の駅が灰色なのを見てとても悲しかったの。こんなに色の殺風景な所で生活できるかしら。神戸女学院を思うと、松があり田んぼがあり、山と海があり、自然に色があるんですよ。

神戸は駅もカラフルで楽しい街なんですすよ。昨日、藤本ハルミさんに「神戸に居て欲しい」って散々言われましてけど、本当に嬉しかったですね。神戸はファッションに対する環境づくりが出来ているから楽ですすね。理解できない人に、ある程度まで分かってもらえるまでしゃべるのって、くたびれますすよ。でも分かってもらってからって慣れちゃうと、戦ってゆくファイトが無くなって来るから怖いんですけど。

★夢ある街に「芸術家アパート」を

立電 オールスタイルの川上さんが、ポトアイランドの先に「夢の島」を造って世界と日本のデザイナー達が住めるアーティスト達のアトリエを造りたい。その為に500億円いるけど、県と市が携わってくれないだろうかと考えている、とおっしゃっています。

秦 そんなの出来たら私も入りたいですわ。

立電 夢の構想ですが、人間って夢を持ってないとダメですよ。去年のKFFのパーティーで一番初めにパットおっしゃるんです。皆に良い影響を与えますでしよ、とても尊敬してしまいます。金儲けの話ばかりする人もありますが、我々の感じる夢や色のことを話される方が健在だから、神戸は強いですよ。

秦 ゆとりがあるのよ、神戸って。

立電 この間、フランスのマーク・エステルさんもその話しを聞いて「島が出来たら私も入れて欲しい」と言っていましたね。夢を人に与える人って大事ですね。ファッションは、人が求めるものを形に表わすものですね、砂

丘子先生の作品にも人は夢を求めているんですよ。その根元が色から出て来ている事は素敵ですよ。

今回の講演で、東京と神戸ではどう違いましたか。

秦 東京と神戸って言う事より、初めて異業種の人達を対象に話したんです。インテリアデザイナーとか化粧品の人とかです。皆さんとても喜んでくださって、良かったって言って下さいましたよ。

立亀 異業種というのと、自動車なんかもいいですね。

秦 ええ、実は今年から車の仕事を始めたんです。秘密の話ですが、車の色を決めるお仕事に参加させてもらっているんです。ビルの広い広い屋上で、60台からの車の色を晴れと曇りの時に見せてくれるの。大空の下で広々として、もう私嬉しくなって走り回ってしまったりわ(笑)。机の上で色を見るのじゃなくて、一つの色を決めるのもワットと走って行って「コレ！コレ！」って(笑)。

その会社の中で働いている人もセンスが良いし、感覚が良いのね。デザイン関係の人達は、アメリカとヨーロッパで最初トレーニングさせるんですって。皆、感じ良くってフレキシブルで、一生懸命。私まで若くて奇麗になつたみたい嬉しかったわ。

立亀 環境って大切ですよ。青空の下でいいね。

秦 ゼイタク！って叫んで走りましたね。水泳の練習して良かったわ(笑)。

立亀 こんなに夢ある人が来て、バツと泊まれるレジデンスなどを、神戸市も考えなきゃいけないですよ。ホテルとかじゃなくってね。ニューヨークには芸術家アパートがあるんですよ。遊びに行くと、学生時代からの女友達が、写真家なんですがね、電話一本かけると、版画の木村利三郎や日本人芸術家達がゾクゾクと集って来んです。建物も昔の電話局だから豪華でも何でも無いんです。でも楽しいんです。この間はトランペットの日野皓正も来たんですよ。食べる物も大したもの出ないけど、雰囲気がいい。神戸にも芸術アパートみたいな物が出来て、全国から人が来られるようになればいいですね。今

ある建物を使ったら、すぐにでも可能なんですがね。私には、このポートアイランドに出来た神戸芸術工科大学の研究所を使って欲しいとお願ひしているんですよ。ハイビジョンや装置が整っていますし。即ち、大内順子さんに来てもらい「お酒とファッション」の話をしてもらったりしています。が、部屋ばかりで、住む所が無いんですよ。

秦 私はブルも欲しいわ(笑)。

立亀 まだ土地がいっぱいあるからもって考えないと。

秦 今東京で流行っているのは、千葉とかの土地の安い所で3人が共同で、ブル付きのテラスハウスを造るの。住居はプライベートを保ちながら裏庭のブルは共同で、そこでコミュニケーションが出来るのね。

私は5年前にアメリカのシアトルに家を買ったけど、車庫にブル付。何でも無い建物だけど、敷地なんてすごい広さ、それが三千万円以下よ。日本はどう言うっても貧しいわよ、ゆとりがないもの。

立亀 着る物は豊かになったけど、環境から住まいまで全てを豊かにできる人は少ないですよものね。

秦 小さな島の中に人がいっぱい居るから、土地が無いけど少しでも住空間を豊かにしたいですよ。

立亀 それを少し叶えているのは六甲アイランドです。ポートアイランドは、商業地域と住宅の区別がはっきりしすぎているの。六甲アイランドはその点隣接しているから、これから伸びてゆくという意見がありますね。だからこの次は、ポートアイランドの先に夢の島が欲しいですよ。



カット／中村一夫氏

特集Ⅲ 対談▽

アート&ファッション

アートを神戸市民の
日常生活へと
広げていこう。

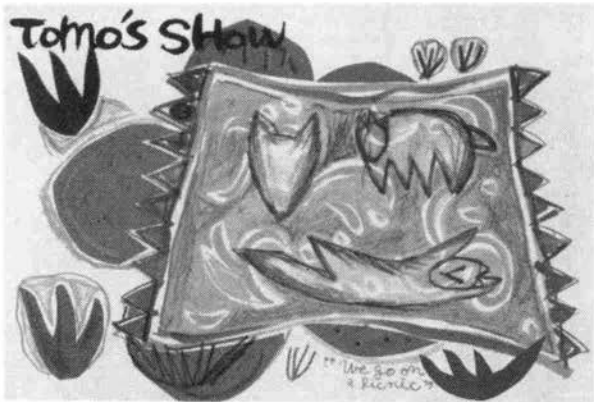
中村一夫

ファッション・デザイナー

杉山知子

アーティスト

カット／杉山知子氏



——神戸がファッション都市宣言をして20年。ファッションが単なる流行の側面から、最近その芸術性を強く出しはじめているように感じます。そのあたりを、アートとファッションの第一線でご活躍のお二方にお話し願います。

●ファッションは、先行するアートから、テーマ性を獲得する。

中村 そうですね……少し昔の話をしてもいいですか。僕は小さい頃から絵を描くのが好きだったんですよ。数学のノートなどには、計算の式よりも、絵のほうがずっと多いのです(笑)。今でも、覚えていますね。紙さえあれば、絵を描いていました。杉山さんのような、アーティストを目指していたのですよ。でも、断念したのです。中学生のときでした。僕は滋賀県に住んでいまして、黒田清輝のお孫さんと同級でした。遺伝でしようかね、才能がありましたよ。これは、かなわん(笑)、と感じましたね。勝負するのを投げけてしまいました。それまでは、子供ころに、絵画きになりたいと思ってたんですが、彼のおかげで(笑)、アーティストのほうにいかなくてよかったと、今感謝してます(笑)。でも、アートに接近したい気持は、今でも、うずいて(笑)、僕の仕事を支えているようです。



中村一夫さん

杉山 私の場合は、いつの間にか、
という感じで現在の仕事を行って
います。中学生の頃に、油絵を描
いていましたが、私の色彩のト
ーンは、その頃と、あまり変わって
いないようですね、今もだいたい
同じみたい……。

タのものだと思うんですが……。
一緒にはならないようです。ア
ートの面から見ますと、ファッショ
ンの分野では、たとえば、マチス
とかクリムトの作品を使って服を
作られていますね、でも、それで、
アートとファッションが、ひとつ
になっているとは、肯定しにくい
ところも感じます。

杉山 もう年じゅうです(笑)。
春が近づくと、さて、今年は何の
服でキメようかと、冬がくれば
少しシックにしてみようかと
(笑)、それはもう、いつも気にし
ています。楽しいですね。ショッ
ピングも好きで、いろいろな服の
色彩は、私のアートにとっても、
役に立っているでしょうね。

でも、私の着る服は、アートの
感覚ではなくて、ほんの好みから
出たものようです。アートとフ
ァッションは、どうでしょう、別

杉山知子さん



中村 ファッションに、テーマ性
を徹底させようとしているので
す。服を作る段階から、それを販売
するところまで、ひとつのテーマ
で貫こうという傾向があります。

そのテーマを決めるのに、海外
のいろいろな情報を取り入れたり
しますでしょう。それで、たとえ
ば今年、オリンピックが開かれま
すね、スペインで。そうすると、ピ
カソやミロの作品が、浮かんでく
るのです。スペインムードが服装
にも出てきます。それで、芸術作
品を服装に取り入れたいですね。

このような傾向は、以前にもあり
ましたよ。60・70年代、サン・ロ
ーラン全盛のころには、モンドリ
アンのコンポジションを取り入れ
たりしました。ピカソのタッチの
鳩が服に描かれていたり、最近
はスペインのムードが出ていま
す。そういう訳で、ファッション



にとつて、アートは「お師匠さん」的存在なのです。

——中村さんが、ニュー・クリエーターのトップということ、以前賞を受けられたときも、ピカソに影響された作品でしたね。

中村 そうですね。日比野克彦さんにも参加してもらって、スペインのムードでシヨウを行いました。僕はピカソにテーマを絞って、ピカソが青の時代や桃色の時代、またニグロの時代へと変遷するのを、五つの段階に区切り、彼の考え方と色彩を服装に盛り込みました。現在、アパレルの方々が、同じようにされていますね。今後も、このような傾向は強くなっていくと思います。プレゼンテーションもうまくなって、重要性を増しますから、ファッションは、アートにさらに接近するでしょう。僕たちデザイナーも勉強していかなければならないと思いますよ。そのときに、芸術家の世界、たとえば杉山さんのようにご自身の芸術の特性、揺ぎのない芸術観を持っていらっしゃる芸術家の作品は、アートに近づこうとし

ているデザイナーの手本となりま
すね。

——ファッションにとつて、デザイナーの個性は、どのように反映されているのですか。

中村 アーティストの方のように、作品全部に個性を表現できる、となると、いろいろ難しい面もありますね。なんといっても、売れるものを作らないといけないし（笑）。そういう点では、商業ベールに乗せる作品になりますが、日比野さんと一緒にやらしてもらったシヨウなどでは、売れることは考えてなくて、やはりひとつのアーティストとして、思い切り僕の個性を出しましたね。ほかのデザイナーの方も同じでしょう。

杉山 それが商業ベールになると……。

中村 ちよっと目をつぶらなければならぬ。(笑)。がまんの顔もしないといけない(笑)。でも、僕らデザイナーの自己満足だけでは、商業上の経営は、うまくいかないでしょうね。もちろん、全面的にこちらが折れるのではなく、いろいろ協議は重ねます。アーティストの方には、この協議の部分がなさそうなので(笑)、その点うらやましいですよ。

杉山 自分自身の中では、いろいろ協議しますね(笑)、もちろん、ファッションの方がやってらっし

やる協議の内容とは、別のものですが(笑)。

中村 僕も服飾デザインを学校で習っているときは、ファッション自身も芸術のレベルまで高めなければ、という思いがありました。

だから、商業面からのコメントがきて、直すように言われると、心の底では、カッと(笑)したものです。僕自身の考え方をかえないで、衝突しそうなこともあったのです。それが、だんだん年齢を重ねてきて(笑)、僕も丸みを帯びてきました(笑)。「売れ行きが、スゴイぞ」などと、言われると、ニコツとする性格へ(笑)、しだいかわってきました(笑)。売れ行きが伸びるにしがたって、僕にかけてくれる声も、軽やかに聞こえてきたりして(笑)。といっても、芸術指向を、なくしてはいけないと思いますね。それがなくなつては、ファッションの意義みたいなものもなくなってしまうでしょうね。日比野さんと一緒にしたシヨウのときも、芸術面から多くの刺激を受けました。ファッションは、アートに限りなく接近すべきでしょう。神戸をテーマにするときには、杉山さんに接近したいと目論んでおります(笑)。杉山 私のほかに、神戸には優れたアーティストの方が、たくさんいらっしやいますよ。インターナショナルな雰囲気があつて、アーティスト同士のおつき合ひも、

べたべたしてなくて、すっきりして……素敵ね。

中村 杉山さんは、どのようなときに発想が生まれて、作品に取りかかれますか？夜やすまれていらっしやるるときに、夢の中で思いつかれるとか……作品を拝見していますと、そんな感じもしますね。

杉山 もう、ぐっすり眠ってしまっていて(笑)、夢の中で発想が生まれるということはないですね。私の作品は、メルヘンのようだと言われてますけど、私自身は、現実的ですね(笑)。メルヘンと言われるのは、ちよっとね、嫌なんですよ(笑)。

中村 絵本なんかを、やられないのですか。

杉山 やってみたい気はしますね。これが私の作品です、と言って人にみていただくときに、絵本の形にしたほうが、写真に撮るより、作品がそこなわれずに伝わっていく感じがするものですから。

●アートを神戸市民の日常生活へと広げていこう。

——杉山さんのような優れたア



ティストが、これから神戸にどんな生まれきてほしいですね。

杉山 ギャラリーのほうは経営の点で、いろいろ難しい面もあるでしょうが、美術館など旧居留地辺りに、ぜひほしいですね。市民の方が、アートの身近になるのが、まず必要なことでしょう。

中村 ぜひ欲しいですね。

杉山 ファッション都市神戸とは言われてますけど、一般の人は、アパレルの会社が神戸に多いのかな、といったくらい感じしかもってないみたいですね。もっと、広がってほしいです。K・F・Sも、海外から一流のデザイナーに審査員になってもらって、

衆目を集めていくようにしていただきたい気がします。

中村 まだまだ業界の内部だけのものになってしまっているように、一般には浸透していないですね。僕らも一生懸命には、やっているんですけど……。

杉山 ポートアイランドから神戸の街全体へ広がってほしいですね。

中村 その点神戸の街は、東京などに比べてローカルな感じですし、アドバランあげて(笑)、アピールしていくのは、比較的にたんなようです。

——アートの面でも、たとえば美山知子ミュージアムと銘打った美

術館を建てて、常時杉山さんの作品に触れられるようになるとういんですね。

杉山 いえいえ、まだそこまでは……でも、アーティストの美術館は必要ですね。お役人気質で、美術館を維持してもらっても、困ります(笑)。

中村 東京・青山のコム・デ・ギャルソンの入口には、話題性があり、先駆的なアーティストの作品が置かれたりしてますね。アートを身近なものにしてファッションに刺激を与えようとしているのでしょう。このように、たとえば、売り場とかアパレル会社の本社ビルなどに、芸術作品を展示する必要性が、ますます高まっていくことは確実です。会社それぞれのカラーに合った作品を飾っていくべきですね。単に高価だから、というだけで絵を飾るということではなしに……(笑)。

杉山 そういう意味では、アートはファッション業界だけでなく、もっと広く日常生活へと関わっていくでしょうね。私も、できるだけのことをやっていきたいわ。

中村 ファッションも、これからますますアートにお世話になります(笑)。お互いに、がんばっていきたいですね。

(兵庫倶楽部にて)

●KOBÉ FASHION 特集

新感度のニューメーカーを探る…… 情報発信は神戸発ブランドから



アンドウ

トロワ

アンドウ・トロワは創立が昭和六十年。平成三年に、同年十月にオープンした神戸ファッションマートに本社を移転した。

Blanc De Noir (ブランドノアール)とMikaaugé (ミカアージュ)の2つのブランドがある。

「ブランドノアール」のブランドコンセプトは二十歳から二十五歳ぐらいのOLの通勤、タウン服。それぞれの時期でのトレンドを意識して、二カ月のローテーションで企画を組んでいる。

この春夏は、ビスチエを組ませたアンサンブルプラスパンツというセットアップがメイン。素材はポリエステル、ビケなど。カラーはナチュラルのアースカラーが中心で、ポイントとしてビビッドやブライトカラーを置いている。プリントは花柄を様々にアレンジ。デザインはキュートさよりも「粋なかつこよさ」を基本に、洗練された都会的なイメージを提案して

いる。ウィークデーはスーツで、ウィークエンドはよりカジュアルなボトムで対応。三宮ではビブレで展開している。

「ミカアージュ」のブランドコンセプトは二十五歳ぐらいのパーティーシーンでの装い。誰が着てもかわいい女らしさが生かされゴージャスな付属使いによって、自分なりのおしゃれを楽しむことができ、個性を表現する。完全なファッションではなく、スーツやワンピースで、アフターファイブやプライベートパーティーを、華やかに彩る。

今後はポリウムゾーンの中にも提案型メーカーとして、展開していきたいとしている。

■東灘区向洋町中6-9

神戸ファッションマート5F・07

電話 8123



モンテ オヴェスト



代表取締役
沼田宏美さん

上品なカジュアルで、新しいライフスタイルを提案する神戸発のブランド「モンテ・オヴェスト」。

「モンテ・オヴェスト」ブランドは昭和六十一年の設立、順調に規模を拡大している。

現在の扱いブランドは、ニューコンサバティブ・カジュアルをテーマに、オリジナル素材と輸入素材を中心としたカット&ソーとニットコレクションは、神戸らしい色づかいとエレガントなシルエツトが特徴。同素材で様々なコーディネートが楽しめる豊富なデザインヴァリエーションが大きな魅力。

また、リゾートウェアの「モンテ・オヴェスト・パラディーン」。

従来のスポーツウェアに遊び心をプラスした上質のリゾート&スポ

「ツカジュアルウェア。ゴルフ、テニス、マリン、スキーなど、オールシーズンスポーツシーンにワンランク上のリゾートライフを提案。スポーツだけでなく、ピフオア&アフターのアイテムも幅広く充実。ちよつと欲張りなオシャレなスポーツシーンを満喫できそう。



「二ブランド共に素材段階からオリジナル以外の素材は全てインポートに限定するなどの差別化を徹底。特にプリントについては毎シーズン、月別テーマを設定し、シーズンマーチャンダイジング(MD)を展開するなど売り場提案力を強化している。

「この夏は、プリントもののリーズなシルエットのパンツを中心にコーディネートを楽しんでほしい。」と山西真理デザイナー兼ディレクターのメッセージ。これらのシーズンに「ピッターな」モンテ・オヴェストの遊感覚を楽しみたい。

■東港区向洋町中6-19

神戸ファッションマート5S1-06

☎851-8507

ピッティ ジャパン



ピッティジャパン
株式会社
取締役社長
荒津 治さん

会社設立は平成2年9月。素材、デザイン、縫製、全てにおいて、徹底したモノ作りの姿勢を貫きながら、リーズナブルな価格の本格ブレタポルテを目指し、スタートしたのが「ヴィットリオ・ガレット」ブランドだ。

世界のトップクリエイターが使用する素材をヨーロッパから直輸入。最高級の素材を用いた上での万全な国内での生産体制を確保している。確かな品質で、着やすさを特徴に持ちながら、トレンド性も強く、ヨーロッパからの情報をリアルタイムに反映させている。



’92年秋冬物は、明るく健康的なカラーがポイント。ファッションの方向性が、もはや行きつくところまで行った感のある昨今、シヤネルやディオールがパリに店を構

えた頃のブレタの原点の時代を意識した服づくりを目指している。デザインルーム、プレスルームを、東京・代官山に持ち、若い感性に訴えかけているが、営業面では神戸が中心。しかし、むしろ「神戸ファッション」の枠にとらわれない新しい形の展開が期待される。

小売価格はスーツ8万9千円が中心とハイクオリティを維持しながらとしては堅実な価格だ。ユイザー、バイヤーの目が肥えてきているからこそ、「ヴィットリオ・ガレット」のニーズは増えるだろう。まだ立ち上がったばかりだからこそ、冒険を恐れずに進んで行ける強さを感じさせるブランドだ。

■中央区熊内橋通6-3-14

ブリリアント新神戸2F

☎242-8025

カルティベイツ



株式会社カルティベイツ
代表取締役社長
松谷富士男さん

二十五歳ぐらいからの女性の、どちらかというとお出かけ着としての服づくりを展開。大人のファッションでありながら、どこかにかわいらしさのある服を目指す。アイテムはスーツ、ワンピース、ブラウス、ボトムや小物。小物は



かばんやベルト、アクセサリーなど、服に合わせて、トータルにコーディネートできる。

この春夏の「カルティベイツ」のテーマは「モダンフラッシュバック」。六十年代にジヴァンシイなどがシルエット作りをしてきた時代のファッションをアレンジする。エレガンスでいて、モダン。きれいな色使いで、神戸らしさを打ち出す。二つの流れがあり、一つは六十年代のクチュールマインドをさらに若々しくし、ブリリアントカラーで、Aラインやエンパイアライン、フィット&フレアー、アウーグラスラインなどのシルエット、マテリアルはグログラン、アートビケ、スラブなどのハリ、コシのある素材のもの。もう一つは六十年代のストリートモードのポップアートを意識したモチーフが中心の、サンシャインカラーで、マテリアルはシャリ感の合織、綿合織の幾何プリント、シルエットはミニマムライン、シャープラインのものだ。

ファッション専門店のベニヤ(桃紅屋)の代表取締役である松

谷富士男さんが昭和六十三年に創立。東京、大阪、神戸のベニヤをはじめ、東京から西日本を中心に展開。

今後は商品内で単品コーディネートを楽しめる様にもう少し枠を広げていきたいとしている。

■東灘区向洋町中6-19

神戸ファッションマーケット6E-01

電話 857-8629

セノフィッチ

陽光が明るくふりそそぎ、街中の花のつぼみが華やかに咲きほころぶ春。どこか浮き浮きした気分にはびったりなのが「セノフィッチ」のスポーティーカジュアルだ。

神戸では三宮センター街にある「RICHIE」(リッチュ)でショップとして展開している。全国的には北は札幌から南は宮崎、鹿児島まで。柄の派手さ、おもしろさが神戸っぽいとして人気を呼ん



でいる。

アイテムはトレーナー、ポロシャツ、ブルゾン、スカート、布帛、ニットなどのほか、ゴルフのキャディーバッグ、シューズケース、水着、スキーウェアなど、スポーティーカジュアルから、スポーツウェアも対応している。

製品はイタリアカラーをベースにしたビッドなカラーが特徴。「セノフィッチ」はイタリアでブランド登録をして、ライセンスを得ている。

今年の春夏コレクションのテーマは「カーニバル」。ビッドなカラーの組み合わせとワクワクするような楽しいカーニバルの柄だ。

テニス、ゴルフ、水泳など、スポーツをする人が年令を問わずに増えるにつれ、スポーツウェアやスポーティーカジュアルの需要も増えている。精神年令で着られるので、「セノフィッチ」の対象年齢層は幅広い。

創立昭和六十三年。年商五億円。従業員六名。市場ではまだ限られており、珍しい分野であるスポーティーカジュアルを確立させていきたいとして躍進中だ。

■中央区磯辺通4-1-18

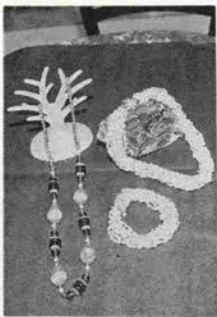
電話 261-1247

三幸社



株式会社 三幸社
代表取締役
宮代昌明さん

会社設立から20年。貿易センタービルのオフィスから、必要とされているものを、タイムリーに提供できるショールームを目指して、神戸ファッションマートに移転した。大人の女性のための主張を持ったデザインが身上的アクセサリ。本物のジュエリーでは表現しきれない、個性的で幅のある品揃えだ。



インポートアクセサリ「ナビア」は、アメリカではトップクラスのメーカー。自立した女性をイメージした、落ち着きのあるあきのこないデザイン。イヤリング5千円〜8千円など低価格で、しかも仕上げ加工がすばらしく、イミテーションジュエリーの神髄ともいえる。92年春物展示会では、久々に注目されている首回りを重視したアクセサリを打ち出し、デザインは大振りへと変化している。

その他、今後、パーティーグッズ

やブリッジジュエリー（銀に7ミクロンの金メッキ加工。より本物に近いイミテーション）など、欧米ではすでに認知されているアクセサリーの展開が期待される。

■東灘区向洋町中6-1-9

神戸ファッションマート3E-8&12

電話 857-833778

ロイヤルサルート



株式会社 シー
ケー・エフ・本部
コンスマー製品部
レジュー製品治さん
次長 清水良治さん

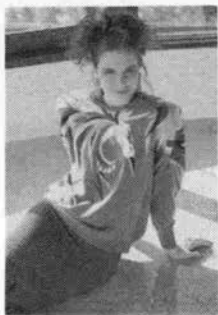
建設器材の専門商社、株式会社KFCが、伝統あるスコットランドのニットウェアメーカー、ジョン・レイン・オブ・ホーイック社を、新規事業の一環として買収したのが「ロイヤルサルート」ブランド。昨年亡くなった前社長高田俊治氏が、異業種への夢をかけた平成2年にスタートさせた。

ジョン・レイン・オブ・ホーイック社は、スコットランドに本社

及び本社工場を持ち、高品質なカシミア製品を世界市場に販売していた。その100%、すなわち工場までを所有しているロイヤルサルートは、伝統ある高度なパターンデザイン技術をも保有していること

になる。

商品は、スコットランド製カシミア100%か、シルク、ウール混などの90%。トラッドでベーシックなもののからハンドインターシャ



（象眼細工）までデザインは幅広い。スコットランドの伝統技術と品質を備えた上で、現在の日本人に合わせたサイズ、色が工夫され、着心地も充分配慮されている。オリジナルデザイナーによるデザインで、一つの柄につき100枚の生産に限られている。価格は、無地8万円前後からハンドインターシャ12万〜20万円前後。

限りある資源だけに、本当に良いものを一枚ずつでも多くの専門店に置きたいと、夢は広がる。

■東灘区向洋町中6-1-9

神戸ファッションマート7S-07

電話 857-8710

S & H

20代後半から40代にかけてのOLにターゲットをしぼる。ブラウス、スカート、ジャケットを、お

お客様の個性に合わせてコーディネート。200種類あるサンプルで、色々な組み合わせが楽しめる。おすすめなのが、シルク等、天然素材をつかった製品。流行にこだわらない姿勢が、色、型に表われて、サンプルではあるが、とても美しい。「神戸カラーがでている」と言われるゆえんだ。見た目よりも着て納得する製品づくりを目指す。

九州から名古屋までの、主に専門店に卸している。多くて30着しか造らないため、ほとんどオーダーメイドに近い。神戸ではトアロードの「プティックMIA」ほか一軒のみで手に入る。価格はスーツで10万〜20万。パーゲンはしない。

白石早苗社長が手間ひまかけて



育ててきたこの会社も、今年で6年目。派手なことはいないが、客の口コミで、業績は確実に伸びてきている。春夏2回、秋冬2回の展示会では、メーカーからの視察も少なくない。一般よりもプロに受ける服と言えるかもしれない。

今、年間4億くらいの売り上げがあるが、これからもマイペースは続けるつもりだ。「展示会で売り切ることが、一番の目標。理屈ではない、服が顔ですから。」と白石社長は言う。いつまでも客を裏切らない姿勢を大切にして欲しい。

■中央区山本通2-14-20
☎078-241-6611

ANGELA



オーナーの今中輝代さん(左)、
淡野良重さん(右)

一見シンプル、でも細かい部分にはきめ細かく丁寧なのが、ANGELA(アンヘラ)の服作り。設立は平成元年、ANGELAはスペイン語で天使の意味。

ターゲットは、20代〜50代と幅広い。その理由は、やはりシンプルで着心地の良い商品作りにあると言える。基本的に専門店を対象に、現物をプティックに納品するという形式をとっている。

シーズンごとの色の展開は、5

〜6色。黒、白、パステル調のブルー、パステル調のピンク、ピーチ、黄がメインカラー、秋冬には赤も含まれる。

ニット、カットソー、布帛の素材で作られるANGELAの商品は、設立当初からのガンコなまでの生地選び、色に対するこだわりが今日のANGELARらしさを表わしている。その本物のこだわりがお客様に伝わり、着やすさ、シンプルだが細部にこったオシャレそれでいてリーズナブルな商品が着実にファンを増やしている。



企画は、今中さんと淡野さんによって2人の興味あるもの、2人の着たい服が考案される。小さなメーカーだからこそできる、きめの細かい心配り、手のこんだ仕事を行なっている。

こうした、お客様本位の服作りはこれからもANGELAFANを作っていくだろう。

■東灘区本山中町4丁目-9-27-201
☎078-431-8726

(文責・編集部)

THE KOBECCO

月刊神戸っ子 31周年 記念パーティご案内

- 第21回ブルーメール賞表彰式

世界の酒祭り

- '92 神戸酒徒番附表彰式
- ショータイム

演出／植田 紳爾

麻鳥 千穂／近衛 真理／瀬戸内美八

“Swing Kobe”

- 恒例チャリティ福引大会他

'92／4月28日(火) PM 6:30 開演

神戸ポートピアホテル借楽の間(302)1111 会員券 ¥15,000 (神戸っ子倶楽部) ¥14,000

主催／月刊神戸っ子

お申込み／078 (331) 2246 Fax 078 (331) 2795

後援

神戸百店会他

ご先祖の精霊に悠久の安らぎの場を…。



永代祠堂の内部



第二回
兵庫大仏祭り
5月9日(土)10日(日)
於・能福寺界隈

兵庫大仏・能福寺では、ただ今、永代祠堂のお申し込みを受けつけています。

大仏さまの台座一階「ビルシャナ殿」に、永代祠堂があります。中央正面には能福寺に伝わる木造十一面観世音菩薩立像（弘仁年間作・国指定重文）が安置され、四千体の永代諸精霊をお護りしつつお浄土へ導いて下さいます。

永代祠堂の仕様

永代祠堂はこの大仏さまと能福寺が存在するがぎり永遠に貴家（貴社）のお精霊をお祀りしご供養するものであります。あなたがお申し込みになる永代のご仏像は大仏さまのお姿のミニチュア仏で大きさが四種類ございます。いずれも本金箔押し仕上げの豪華なお仏像です。

◎永代祠堂冥加料

- 3号(7cm) 一体 10万円以上(二霊迄記帳)
- 2号(12cm) 一体 30万円以上(四霊迄記帳)
- 1号(18cm) 一体 50万円以上(六霊迄記帳)
- 特大(23cm) 一体 100万円以上(十霊迄記帳)

◎永代仏の台座に貴家（貴社）の祠堂番号、名字、社名のプレートが付けられ一目で識別でき、戒名・物故社名は永代台帳に記帳されません。記帳霊数は上記の通りです。

新西国観音霊場 第23番札所
福原西国観音霊場第32番札所

能 福 寺

神戸市兵庫区北逆瀬川町1番地
電話 (078) 652-1715



KEI—POKE

経済

ポケットジャーナル



KEI—POKE

★神戸オリエンタルホテル

新社長に中山武雄氏

神戸市中央区京町のオリエンタルホテルは、取締役から中山武雄新社長へと新体制を確立した。中山氏は松山商大卒業後、昭和四十一年にダイエーに入社。同社船橋らばーと店支配人、ホテルセントラーザ成田総支配人などを歴任後、昭和六十二年オリエンタルホテルに。ホテル業界の老舗として、オリエンタルホテルは、中山新社長のもと、新たな躍進へと自信を強めている。



中山武雄新社長

★中山氏の社長就任を

祝う会が開かれる

3月10日、神戸オリエンタルホテルにおいて、神戸ライオンズクラブ主催の中山新社長を祝う会が催された。神戸（ホスト）ライオンズクラブ会長の今川氏らの激励に応え、中山新社長



中山氏を囲むライオンズのメンバー

は、同ホテルの将来の展望を語った。物静かな中山社長の人柄を反映して、会は穏やかなうちにも、"we serve" の精神で結束を強めた。

★東関部屋神戸後援会

発会式が盛大に開かれる

3月3日、神戸オリエンタルホテル「あじさい」の間で、東関部屋神戸後援会の発会式と曙関の激励会が行われた。発起人を代表して園田正和兵庫信用金庫理事長がユーモアたっぷりに挨拶した。安井俊彦神戸市会議員は、外人力士の日本での苦労話を語りながら、神戸の開かれた風土に東関



澤井氏の首頭で乾杯する東関親方と曙関

部屋が馴染んでいくことを確信した。

★世界初のレーザー光線利用の大型映像機を開発

(株)アルプ(本社・大阪市)が、ドームの天井や煙突など凸凹のある面のどこにでも焦点が合う画期的な映像機「ProFX」(プロフェックス)を開発した。3月から博覧会、コンサートなど各種イベントへ営業展開している。



レーザーを光源とした「ProFX」映像機

★KOBEOフィスレディ★

池田 夢香さん (25)
 (B・I・G(英国保険団)
 神戸営業所勤務)



B. I. G. (英国保険団) の神戸営業所に勤務されている池田夢香(ゆめか)さん。お名前のように、夢とはのかな香りをあわせもつソフィスティケイティッド・レディです。海上課では、輸出入グッズの証券を作成するお仕事。仕事に欠かさない語学力は、1年半余りのアメリカ生活仕込みで、上司の方の折り紙つき。気さくで物腰の柔らかな彼女は、友達づくりがとても上手です。“ボーイフレンドは…?” お羊座のB型 吹田市在住